

WAGGGS

Stop the Violence Campaign Training in Rwanda

2013.5/6~5/10

~ストップ ザ バイオレンス キャンペーン トレイニング イン ルワンダ (アフリカ) ~

参加報告書



大阪府第55団 宮次 励來 奈良県第30団 下良 真季

【目次】

事業概要	2
参加国一覧	2
事前準備	2
スケジュール	3
プログラム報告	4
参加者感想	ļ 2

【事業概要】

様々な国からの参加者共に暴力についてのディスカッションや多様な発見、理解、そしてルワンダガールガイド連盟が取り組んだ暴力をなくすキャンペーンを学ぶ機会を通して自国での STV キャンペーンの作成するための研修会。

【参加国】

参加国:28カ国、48人

アフリカ地域: ウガンダ、ケニア、コートジボワール、コンゴ、

コンゴ民主共和国、中央アフリカ、ナイジェリア、

ブルキナファソ、ブルンジ、ボリビア、マダガスカル、

ルワンダ

アジア太平洋地域:オーストラリア、クックアイランド、スリランカ、日本、

パキスタン、マレーシア、モルディブ

アラブ地域: エジプト

ヨーロッパ地域: アイルランド、イギリス、スウェーデン、デンマーク

西半球地域: アメリカ、カナダ、グレナダ、コスタリカ

【事前課題】

次の項目についての自国の調査とその内容を展示できるようにまとめる。

※残念ながら展示は会場スペースの関係で披露する機会はありませんでした。

- 1. 少女に対する暴力はどのようなものがあるか。また影響を受けている人数。
- 2. 所属連盟は、男女間の暴力あるいは平等化に関してどのようなことを行っているか。
- 3.他団体などが行っているキャンペーンや活動について。

【イーェジイス】

	188	288	388	488	5BB	⊟ ⊟ 9	788	888
	5月5日(日)	5月6日(月)	5月7日(火)	5月8日(水)	5月9日(木)	5月10日(金)	5月11日(土)	5月12日(日)
7:30-8:30			朝食			自時	det	〜州の回場
8:30-9:00			放儀礼(朝のつどい)			放儀孔		
9:00-10:30		セミナー背景	バネル ディスカッション	SWTO		選択ワーケショップ		
10:30-11:00			71-916		1	ティータイム	オプション	
11:00-13:00		オーブニング セレモニー	虚像とその事実、 問題の解決	マッピング、 伝達とトレイニング	ルキフ奶問	選択ワーケショップ	盾校配高階兒子 ISANGE見学	
13:00-14:15			母母			與		
14:15-14:30			ジェゾーノグノ			ンモベーイケイ		
14:30-16:00		暴力と性別	ツールキットに ついて			アクションプラン 作り	ホームスティ	
16:00-16:30		ティータイム	314	ルワンダ66連盟本	->- <u>7</u>	ティータイム		
16:30-18:00	ウェルカムセッション	91 14 04 11	「挑戦すること」と	部の訪問	キャンペーンとアク	アクションプランの ブレゼン		
18:00-19:00	4	TH RECKING	「安全の確保」		ションプランニング	振り返り		
19:00-20:00	ž N			夕食				
20:00-21:30	ルワンダ 20:00-21:30 導入セッション カルチャー イブニング	ルワンダ カルチャー イブニング	インターナショナル イブニング	フリータイム	個人ワーク	クロージング セレモニー		

5月5日(日)16:30~18:00

セッション/プログラム ウェルカムセッション

【内容・手法】

正式なプログラムの開始を翌日にひかえ午後からぞくぞくと会場のホテルに到着する参加者。夕方から顔合わせやパトロール分け、自己紹介などが行われました。

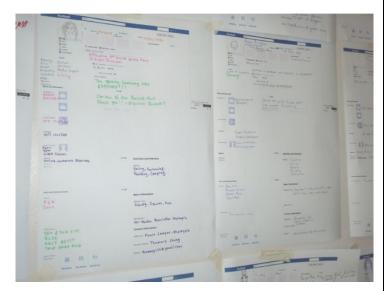
Facebook のフォーマットを模した紙に各自が自分のプロフィール欄などを書き込み、これから約1週間に渡ってセッション会場となる会議室の壁に貼りました。

この"アナログ Facebook"は滞在中に「友だち申請」とか「ステイタス」など、更新書

き込みして楽しめるようになっていました。

またセミナー参加者間での約束ごと(Ground rules)を全員で意見を 出し合って作成しました。

- 話をよく聞く
- 時間に遅れない
- 他を尊重する
- 携帯電話はマナーモードに など



5月5日(日)19:30~20:30

セッション/プログラム | 導入プログラム

【内容・手法】

★導入プログラム

1) セミナー参加における目標

フロアに散らばった画像(様々なイメージ)の中から自分の目標に合うイメージを探し 出して、なぜそれを選んだかをパトロールで発表し合いました。

私もそうでしたが、「一歩前へ」的なイメージを選んだ人が多いように思いました。

2) オリジナルカクテル作り

残念ながら本当のカクテル(お酒)ではありませんが、ファシリテータのカタリーナは 各種ジュースを混ぜて見本を見せてくれました。

セミナー参加者が求めるスキルやその重要度合いは十人十色。だから各自が必要なスキ

ルを自覚して、オリジナルカクテルのレシピを作る感覚で求めるスキルを明確にしよう という目的でした。

カクテルの材料:

プロジェクトに着手するスキル STV に関するツールキット リーダーシップ パートナーシップ構築 多様性 アドボカシースキル その他スキル



【感想】

プレセミナーとしてのプログラムは"自分がここにいる目的や目標"をはっきりさせる もので、しかも楽しみながらできるアクティビティばかりでいつかアレンジして使いた いと思いました。

プログラムとは別に、パトロールごとに以下のような日替わりの日課の割り振りがありました。

ブログ用の日記/ビデオクリップ作り/朝の旗揚げと前日を振り返るためのアクティビティ (Reflections) /ソングやゲーム (Energizers) /プログラムの評価

Ground rules もそうですが、運営側がすべて企画してしまうのではなく、参加者と共に作りあげる事業の姿だと思いました。

5月6日(月)9:00~10:00

セッション/プログラム ヤミナー開催の背景について

【内容・手法】

セミナー初日は第5のワールドセンターの意味や WAGGGS の使命など、WAGGGS の 基礎知識の解説で始まりました。

アフリカで5番目のワールドセンター事業を行う意味

アフリカは WAGGGS の歴史から見ても重要であること。

アフリカ地域のガールガイド運動はこの数年 USA、UK に続く伸び率であること。 そしてワールドセンター事業によりアフリカ地域 21 カ国のメンバーに様々な機会を与

えることができる。という解説がありました。

WAGGGS の使命とビジョン

Mission:

To enable girls and young women to develop their fullest potential as responsible citizens of the world.

~ 少女と若い女性の可能性を最大限に伸ばし、 責任ある世界市民となれるように活動する ~

Vision:

All girls and young women are valued and take action to change the world. ~ すべての少女と若い女性の一人ひとりが尊ばれ、世界を変えるために行動をおこす ~

これらの使命とビジョンを達成するために必要なキー要素は、

「資金調達」と「パートナーシップ」であると解かれました。

さらに、資金もパートナーも活動が見えなければ得られるものではない。**地域で「見える活動」**をすることがいかに大切かということでした。

この後は、STVに取り組む意義やこれまでの概要、そして今後の動きなどの説明。

UN Women との恊働で男女に使用できる STV 教育プログラムの開発予定や大規模な調査を実施し、国によって優先順位が低かったり予算のない政府であっても WAGGGS で調査することで「少女と若い女性に対する暴力」に関する情報集積のばらつきがないようにしていくそうです。

最後に WLDP(WAGGGS Leadership Development Programme)の解説がありました。

5月6日(月)10:30~13:00

セッション/プログラム 開会式

【内容・手法】

前日に「結婚式が行われるのか?」と思っていたきれいにアレンジされたホールは、なんと私たちの開会式会場でした。



オープニングセレモニー

はルワンダの大臣 3 名と国連職員が参列するという盛大なもので驚きましたが、このことからもルワンダ連盟がいかに政府や他の機関と良い関係を築いているかをうかがい知ることができます。

プロによるダンスパフォーマンスやブラウニーたちのスタンツなどで歓待していただきました。

セレモニーのあとは参加したルワンダのスカウトたちともランチを一緒にとりました。

5月6日(月)14:30~16:00

セッション/プログラム |暴力と性別

【内容・手法】

★パトロールワーク

10 分間で「暴力」とは何かの説明文を完成させるワーク。

一般的に述べられる「身体的」「精神的」という言葉のほかに

あらゆるいじめ/自信を喪失させるもの などといった表現も出ていました。

★国連による「女性に対する暴力」の定義を見る

キーポイントは2点。

「身体的、性的、精神的」この3つの暴力の種類を意識することと、

「社会(公共の場)や家庭」という暴力が発生する場所。

暴力の種類

家庭における暴力

家庭内暴力(世界共通の問題、家族や親戚内での性的虐待もあり)/性的虐待/幼児婚/女児中絶/女性器切除

交際中における暴力

彼氏からの暴力(IT やソーシャルネットワークによる新たな暴力も発生している) 性的虐待/デート DV

10 代のデート DV を扱うサイトの紹介。UK 政府による啓発のためのウェブサイトです。 http://thisisabuse.direct.gov.uk/

動画があるので英語わからなくてもスカウトたちにもわかりやすいと思います。

5月6日(月)16:30~19:00

セッション/プログラム | 情報交換

【内容・手法】

事前課題でまとめてくることになっていた事項をもとにパトロールで各国の少女と若い 女性に対する暴力についての情報交換とその後、テーブルに書かれたテーマで集まった 人と立ったままディスカッションしました。

★各国での問題として扱われている暴力に関する情報

大学や軍隊でのセクシャルハラスメント

学校でのいじめ (民族的少数派なども含む)

DV(身体的暴力を越えてすぐに殺人に発展)

性による不平等(女性は家庭の仕事など、伝統的価値観を含む)

銃の問題

ギャングレイプ

売春が違法でない

★テーブルディスカッション

私は資金調達に関してオーストラリアから参加したリーダーの話が興味深かったです。 彼女はロータリークラブの会合があると聞けば、制服を着てその会場に出かけていき、 めぼしい人に会えば「私もここで今日ちょっと会議があるんです」とか言って軽く挨拶 して名刺を交換して帰ってくるそうです。もちろん会議の予定はないのですが(笑) こうやって「制服を着て会う」ことが先方の印象に残り「先日お会いした〇〇です。」と 後日メールでコンタクトを取るそうです。

【感想】

初日は1日かけて WAGGGS を含む全体の概要と共通認識にあてられていました。 各国の情報交換では DV は万国共通なのだと改めて関心を持つようになりました。お酒が絡んでいることも。

残念だったことは、午後の情報交換の時間に事前課題のディスプレイ展示の予定が会場 の都合で(参加者が多かった)できなくなったことでした。パトロールメンバーと話す 以外にも展示されているものがあれば見て取れたものがたくさんあったのだろうなと思いました。

5月6日(月)20:00~21:30

セッション/プログラム ルワンダ カルチャーイブニング

【内容・手法】

STV キャンペーンロゴの入った黒の T シャツをもらって、その上からルワンダの民族衣装風にドレスアップをしてもらい、カルチャーイブニングに臨みました。

民族舞踊の披露や伝統的な食事の紹介などがあり、ルワンダの会員のみなさんが生き生きとして自国の文化を紹介してくれました。



民族舞踊は牧歌的な優しいものばかりでルワンダの民族性がうかがえました。







5月7日(火)9:00~10:30

セッション/プログラム パネルディスカッション

【内容・手法】

パネルディスカッションでルワンダの男女間暴力について学びました。

パネラー:国連職員 (OneUN)、ISANGE 職員 (DV 被害者のための病院内施設)、 自治体職員

OneUN は国連内の女性を対象にする機関 [UNFPA, UNICEF, UN Women] のグループ名称でこの日来られたパネラーは UNFPA の職員でした。ルワンダで展開している OneUN の活動をアフリカ全域におけるパイロットと位置づけしており、ここでの成功をアフリカ各地に展開していきたいということでした。

ISANGE One Stop Centre は DV 被害者のための病院内にある施設で警察が運営しています。精神的、身体的医療のほか法的なサポートも行っており、被害者の退所後も自宅訪問などのフォローがあるそうです。

パネラーとして来られた職員が男性だったこともあり、施設の女性スタッフはどの程度 いるのかや、職員のトレイニング内容など参加者の質疑がやや彼に集中していました。 この施設へはセミナー終了後の11日に見学に行きました。

自治体職員からは男女間の暴力の様子の話でした。

ここルワンダでも「暴力」とは腕力による身体的なものだけでなく、精神的、経済的な ものも含んでいますとのこと。

また、暴力の結果についても言及。トラウマ、自信喪失、HIV、中絶によるトラウマや 死亡のリスクなど。

文化的には(やや日本と同様に思いました)、家族内のことはあまり口外しないという文化的背景も男女間暴力が絶えない原因のひとつだと。ただ、2003年に法律が変わり状況は好転の兆しがあるそうです。

3名のパネラーの発表からはルワンダの少女と女性の置かれている立場はまだまだ厳しいものだと知りました。

41%の女性が身体的暴力を受けている。

22%の女性が性的暴力を受けている。

48%の女性が DV 被害者。

56%の女性が夫に殴られてもしかたないと思っている。

5月7日(火)11:00~13:00

セッション/プログラム | 通説や虚像とその真実、問題の解決

【内容・手法】

★暴力とメディア

1) 新聞記事を読んでディスカッション(メディア上の表現について注意深く見る) 新聞記事の内容:11歳の少女のレイプ事件が発覚。容疑者グループの学校や犯行 現場となった空き家のトレイラーハウスのある地域は労働者階級エリア。被害者の 少女は常々その服装や化粧から20代に見えたという証言。母親はいったい何をし ているのかという近隣の批判の声。。。

このような記事を読んで、どう思うでしょうか?

記事の表現から私たちもバイアスのかかった目で人物を評価してしまっていないで しょうか?あるいは性別によって何かを押しつけたりしていないでしょうか? 気をつけたいですね。

2) 表現の裏側を考慮する

上の記事にも当てはまりますが、私たちは書かれた表現に引っ張られる傾向にあること を考慮する必要があることを学びました。

メディアに出てくる表現	気にすべき本質
Allege [主張する]	これは疑いないこと言ってるが。。
(被害者が)Confess, admits [認める]	恥ずかしいことと思っていないか?
Victim-blaming [被害者の過失]	被害者も悪いって?
Unharmed [怪我のない]	ケガしてないならいいのか?
Domestic Dispute [家庭内紛争]	家庭内の問題は深入りしないほうがい
	V1?
Engaged in [加担する]	無理やり加担させられていないか?
Sex Scandal [セックススキャンダル]	興味本位に扱っていないか。問題の本質
	カゥ。

★問題の解決

1) パトロールワーク

配布されたどこにでもある街の地図(学校、公民館、ショッピングモール、駅、バス停、 教会、工場、自宅、友だち宅など)に少女や女性にとって危険と思われる所をマーキン グします。

このワークも様々な国からの参加者のおかげで、自宅を含めてあらゆる場所が危険とさ

れたことにみな苦笑いでした。

その後、問題を1カ所に絞りその場所を安全にするための地域での活動方法を話し合いました。

地域住民によるパトロール、どれだけ危険かの証拠を集めて行政に訴えるなど

2) ロールプレイ

次は政府レベルの問題解決方法のロールプレイです。

少女と若い女性に対する暴力に関する32個のプログラムの中から6つまでを閣議で決定するという設定。各大臣に与えられた目標や背景を各自が背負って話し合います。 解決したい目標があっても予算がなかったり、自分の思いは明らかに他の省庁の管轄だったりするので、他の省庁と協力が必要になります。

これらはロビー活動に際して様々な人が様々な方向を向いているので、その立場を理解するとともにポイントを見極めてロビー活動することへの理解につながると思いました。

問題解決のキーワード = STV アクションプランの骨格でもある

サポート (被害者のサポート)

プロテクション(暴力につながるものから遠ざける)

予防(暴力についての教育)

エンパワーメント

お金(基金、資金調達の情報)

情報収集(なにが起こっているかの把握)

連携、パートナーシップ

5月7日(火)14:30~16:00

セッション/プログラム リールキット、アクションプランについて

【内容・手法】

ここからは具体的なアクションプランの作成に近づいていきます。

WAGGGS 作成の STV Toolkit (英語版) の紹介とアドボカシー、11のステップについ て解説がありました。

★アドボカシー(社会に影響を及ぼすための)の3要素

この3つを含んだアクションプランを作成することが望ましい。

Educate(教育:気づかせるための要素)

学校での集会/地域の会合・研修会/国際〇〇デー/動画作成/映画祭/携帯メッセ ージ/スマートフォンアプリ/ソーシャルメディア/フラッシュモブ/ポスター・チ ラシ/メディア/Web サイト

Take Action(行動をおこす)

供/調査/プログラムの提供/ヘルプラ イン設置/リーダー(保護者、先生、地域 の大人を含む)のトレイニング

Speak Out (声をあげる)

ピア・エデュケーション/安全な場所の提 | 行進・デモ/意思決定者への手紙/方針の 宣言や調査結果の公表/懸賞事業/E-ポ ストカード/政府代表に会う/記者会見 /少女と若い女性に対する暴力に関する 会合や研修会に出席

★アクションプランのための11のステップ

このステップは番号通りに進まなくてもOKとのこと。

Step 1	自分の周りの状況を知る	
	情報源、人材、使える時間、資金(文房具使うにもお金が必要)	
Step 2	少女と若い女性に対する暴力についての理解	
	暴力とはなにか、何がどれほど問題になっているのか、	
	暴力の原因やその結果	
Step 3	焦点を絞る(1個または数個まで)	
	どんな暴力(日本の場合、第1弾としてデート DV)、活動のエリア、	
	性別など	
Step 4	協力者や機関、反対勢力を知る	
	社会を変えるには非常に大きな力が必要なのでパートナーシップも大事	
	な要素。同時に反対(抵抗)勢力に関する対策も必要。	

Step 5	ビジョンの作成 (変化を起こすための展望)
	何をどのように変えていくのか、問題解決に関わってほしい人をどのよ
	うに巻き込むか、関連する社会の変化な何か、達成のために何が困難か、
	どんなサポートがあればたすかるか、GS がどのように関わるか
Step 6	変化をおこす人はだれか。
	Step5 のビジョンでキーとなる力を持っている人物を探す。
	彼らの問題に対する意識を調査し、どのようにすればサポートしてくれ
	るかを探る。
	協力してくれやすい順にアプローチしてさらに協力者を増やす。
	例) まずは保護者に協力を依頼 → 保護者間の動きが活発になってきた
	ら学校の校長に声をかけてもらう など
Step 7	目標を明確に(長期、中期、短期)
	長期目標=目指すべき社会の変化の最終地点
	中期目標=対象となる人々の行動に変化が現れる期間
	短期目標=対象となる人々が"問題"に気づき学ぶ期間
Step 8	戦略作り
	アドボカシーの3要素を効果的に組み合わせる
	キーメッセージを考える
	言葉によるインパクトは大きい
	誰がメッセンジャーとなるか
	どのように伝えるのか(口コミ、メディア、web、メール etc)
	タイミングが重要!
	最適な内容を最適なタイミングで最適な人々に伝えることが社会を
	大きく変えるのに必要なこと。
	国際〇〇デー、関連イベントなどの機会を利用することはとても重要
	で有意義。
	スケジュールの算出にいかせる4つの質問
	1) 実行するアクションプランの期間を書き出す
	2) 期間中の国際○○デーやその関連イベントを書き足す
	3) 期間中の国内の記念日や関連イベントを書き出す
	4)対象者に関連するイベントなどを書き出す(例:学祭)
Step 9	行動計画作り
Step 5	今までのStep1~8の様々な要素をまとめて、行動計画書を作成。
	各種の手続きや申請なども含めて、何を、どのように、いつ(いつまで)
	に)、誰によって行われるのかを明確にする。
	10/1 HP(10 0 2 0 11 4/4 0 0 4/4 0 0 7 1 1 4/4 0 0 4/4 0 0 1 1 4/4 0 0 4/4 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

Step 10	キャンペーンを伝える
	資金調達に必要な期間、印刷物なと必要な素材の製作期間を考えてそれ
	ぞれに伝達
Step 11	キャンペーンスタート!
	提携してくれる機関にも告知

★T シャツデザイン

Step3 と 5 のアイデアを盛り込んで各自 1 点デザインするという課題でした。 私は、「少女のために Speak Out、黙っていないでもっと声をだそう」という趣旨で考えました。







5月7日(火)16:30~19:00

セッション/プログラム 「挑戦すること」と「安全の確保」

【内容・手法】

午後のティータイムの後は室外での軽いワークから始まりました。

- ×ゲーム
 - 14歳で親が決めた男性と結婚は虐待
 - 18歳で親が決めた男性と結婚は虐待

これは日本で行うと、どちらもすっと「虐待」に人が移動すると思われますが、やはり様々な国や地域からの参加者だったので興味深かったです。

「14歳」でどちらにも決められないという参加者がいました。国の法律に照らし合わせると違法になると彼女は言ってましたが、なにか思うところがあったのでしょう。それは誰にもわかりませんでした。

また「18歳」では、参加者の中に実際に自分が18歳で親の決めた男性(実際には親が選んだ数人の男性から本人が選んだそうです)と結婚したという人もおり、それは虐待じゃないと。その彼女は子育てが一段落して大学で学び現在は幼稚園の先生をしているという、幸せなパターンでした。

★チャイルドプロテクション(子どもを守る)

1) チャイルドプロテクションポリシー (CPP)

各連盟で CPP を持つことを推奨されました。

CPP を持ち宣告することで連盟の立場が外部にも明確になることで STV キャンペーン も展開しやすくなる。

セミナーに参加している国ではデンマーク、ナイジェリア、ケニア、ルワンダ、マダガスカルの連盟が CPP を既に持っていました。

2) パトロールワーク (話し合い)

子どもを守るためにできる(している)こと(地域、各連盟で)

地域

学校がカウンセラーを紹介している国が多いのが印象的でした。

日本での児童相談所の機能を紹介しました。

多くの人が警察よりもカウンセラーや児童相談所のような機関が有効だと思ってるようでした。

またマダガスカルでは子どもは家庭内の問題であり「地域で子どもを守る」という意識が薄いそうです。

連盟

リーダーが友だちのように接する。

連盟では十分な対応ができていない。

デンマーク連盟では児童心理エキスパートもいるそうで、リーダーの負担軽減になる と評価されていました。

★少女に安全な場所の提供について

1) 少女と若い女性を守るのがガールスカウト運動やリーダーとしての責任

その中身は:安心して活動できる場所の提供

心地よいと思える場所の提供

万一の場合、相談された時に相談してよかったと思えるリーダーになる

相談されたときに大事なポイント

気づく	精神的・感情的な変化
	行動の変化がないか
反応	まず、聞く。良い・悪いの判断をしない。
	話している途中で中断しない。質問しない。

機密性	「誰にも言わないから」とか言わない。	
	(しかるべき対応をとる際に必ず誰かに伝える必要があるから)	
考える	どれほど深刻か。	
	医療的なサポートが必要か。	
一人で対応し	連盟(団なども)担当者と連絡を密にする。	
ない	専門家の紹介も連盟の責任。	
報告	児童相談所など、しかるべき機関に報告(義務として)	
支援	監督(見守り)や外部の支援先を探す	

2) ロールプレイ

様々なシチュエーションの中からパトロールで選び、相談に対応するロールプレイをしました。これは普段考えたことがなかったので、万一の場合に心の準備に役立つと思いました。

提示されたシチュエーション例から一部記載しておきます。

- ① 「家に帰るのが怖い。お父さんが母を殺すと脅す」と少女が伝えてきた。
- ② あなたが、少女や若いリーダーの腕にアザを発見。
- ③ 少女たちが友だち同士で、別の友だちのセックスの話をしているのが聞こえた。
- ④ 少女や若いリーダーから、「性的な画像をインターネット上にばらまかれている」 と相談された

いざというときにパニックにならずに、自分ならどうするか上記の7つのポイントを考慮して考えてみてください。

また、成人研修で専門家を招いての勉強会があればとよい思いました。

【感想】

このセッションでは、「少女を守る責任」に焦点が当てられ、非常に興味深かったです。 STV キャンペーンを遂行するにあたっては活動が外に向きがちで、私もそう思っていま した。しかし STV の実現を目指す組織であれば足もとの「スカウトやヤングリーダーを 守っている組織か?」を問われるのは当然です。キャンペーンと同レベルでこの課題に 取り組む必要があると思いました。

5月7日(火)20:00~21:30

セッション/プログラム インターナショナルイブニング

【内容・手法】

WAGGGS の5つの地域ごとの出し物(踊りや歌)と参加者が持ち寄った国のお菓子などで楽しく過ごしました。AP 地域は豊富な民族衣装のバリエーションをいかしてファッションショーを披露しました。



日本からはお菓子を持参しました。 インスタントの緑茶を飲んでいただきま したが、苦いという反応。。。



アフリカ地域は特徴的な装飾品などの展示もありました。



5月8日(水)9:00~10:30

セッション/プログラム SWTO、

【内容・手法】

★SWTO の4つの窓によるプロジェクトの分析

S (Strength): 強み	W (Weakness): 弱み
例)	例)
プロジェクトの経験がある	プロジェクトが多くて人が足りない
リーダーのトレイニングができている	良いトレイニングがない
	チャイルドプロテクションポリシーが
	ない
T (Threat): 脅威	0 (Opportunity): 機会(外部の要因)
例)	例)
厳しいと思える状況	資金調達先を探している
内部の抵抗	パートナーシップ先を探している
保護者の理解不足(なぜ STV?)	

個人ワークのあとシェアした主な意見

強み

地域コミュニティーのサポートが得られるのでプロジェクトがスムーズに展開できる。 NGO との連携できている。

CPP がある、「暴力は間違い」という社会的認識が浸透している(わざわざ STV キャンペーンする必要がないという弱みでもあるとも言っていました)。

弱み

スカウト機構なので少女を優先的に扱うことはできない。

資金がない (多くが抱える重要な悩み)。

子どもの問題に声をあげない風習がある。

時間がない。

普段は各部門で小さく集会しているので大きなキャンペーンを立ち上げることが困難。 以上のようなシェアでしたが、時間がなかったので強み/弱みのみになりました。

★STV に関する疑問をさらけ出す

各自が持っている STV に取り組む疑問を付箋に書き出し、パトロール内で回答となるアイデアや意見をその付箋の裏に書くというワークを行いました。

私のパトロールにもありましたが、「STV になぜ取り組まなくちゃならないのか、必要

なのか」といった疑問があり、また多くの人がこの疑問をもっているようでした。 シェアされた疑問と主な回答

本当に問題なのか? → 世界中で実際に起こっている実証がある

なぜ重要なのか? → あなたが困っていなくても困っている少女の権利のために 戦う価値がある。

どうやって資金を調達するか? → NGOと協力する

なぜ女性(女子)のみを対象? \rightarrow 女子から始めて男子へ影響させることができるキャンプやハイキングでなくなぜ STV? \rightarrow 結果的には平和で幸せな活動の継続につながる。

様々な疑問と参加者同士による回答でしたが、疑問をさらけ出すことによって、各自の 理解が得られ不完全燃焼のまま帰国しないようになっているのだと思いました。

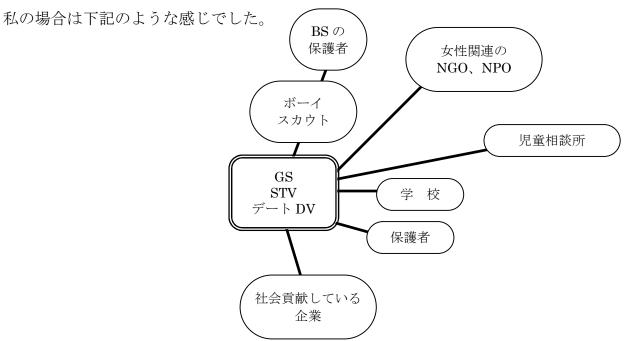
5月8日(水)11:00~13:00

セッション/プログラム マッピング、キャンペーンの伝達

【内容・手法】

★マッピング

マッピングにより協力してくれる機関、非協力的な機関などを仕分ける。



パトロール内の他の参加者も「抵抗勢力」を見つけるのが難しいと言っていましたが、 振り返ってみると、「男性優位の考え」など文化や慣習も「抵抗勢力」としてマッピン グできる思いました。

★男子や男性について

マッピングに関連して、このセッションでは Gender-based violence (GBV)は女性だけではなく、男性にとっても問題であるということについて学びました。

1 Co-Educational System

少女や女性に対する教育は、少年や男性にも積極的にしていくべき

2 パートナーシップ

活動の幅を広げ、協力し合うことで GBV についての知識を深め、認識を広めていく

3 責任

男性にも GBV について知る責任があり、女性には伝える責任がある

考えられる活動:

安心できる環境での話し合い

男性自身に、誰が関わってくれたらよいか聞いてみる

男性に人気の業界トップ (スポーツ選手など) にキャンペーンへの賛同を呼びかける "こうあるべきだ"という先入観を変える

などがあげられました。

実施に展開されている男性向けのキャンペーンの事例の紹介

1) "We are Man" http://www.youtube.com/watch?v=ZYhaodUPqSU

2) "White Ribbon Campaign"

ホワイトリボンは日本でも展開されている世界的なキャンペーンです。







★男子/男性に向けたポスターキャンペーンのためのポスター作り

1) 広告の表現のディスカッション

まずは、外のバルコニーの床に散らばっているたくさんのポスターの中から自分の心に残ったものを一つ選び、なぜそれを選んだか、そしてそのポスターの良い所と悪い所を話し合いました。これらは暴力廃絶を促すポスターで、性的暴力だったり、幼児虐待だったり

と様々なジャンルの暴力を訴えるものでした。私が選んだのはポルノビデオは間違ったセックスについての知識を与えている、という内容のものです。このポスターには、ポルノビデオは

- 普通ではないセックスのアクションをリピートしている
- セックスとは、ポルノビデオのようなことを楽しむものではない
- ・ ポルノビデオは男性によって男性の娯楽の為に作られていることが多い という情報が載っています。大きく驚いた少年の顔と、毒々しい色使いが特徴的でした。

2) ポスター作り

次に、それぞれの意見を交換しあい、もし自分たちがポスターを作るならどのようにするか、という活動を行いました。グループごとに発表し、ドアに貼りました。

私たちのグループが作成したのは、デート DV を訴えるポスターで、暴力をふるわれることを愛情だと勘違いしている女性が多いことから、It is NOT what he SAYS. It is what he DOES. 彼がいっていること(いいことはいくらでも言える)ではなく、彼がしていること(暴力)が本当のことだ、という内容のポスターにしました。

その他の発表されたポスターのキーワード

- 有名人がサッカーボールを蹴る画像に「キック ザ バイオレンス」のコピー。
- ・愛する人を守り GBV に No と言うのが本当の男だ!
- ・スポーツ選手、議員など成功している男性には必ず GBV のない女性がいることを強調。
- ・「GBV と戦おう」と男性が男性にアピール
- ・腕力は GBV と戦うために正しく使おう。 など、





★キャンペーンをリーダーに伝える

キャンペーンを成功させるためには、一人ですべてのことはできません。多くのメンバー にその内容を確実に伝えなければなりません。特にリーダーはアンバサダー(伝道師)として、キャンペーンを企画したメンバーと同レベルの熱意と意識でキャンペーンに臨んで もらえるような研修が必要です。

ここでは、その目的のための「リーダーのための研修」をパトロールで考えました。 30 分間という短い時間の中で研修会をポイントを考えます。

発表された研修会の題材例です。

暴力とは何か知る、(スタッフの共通の理解のため)

暴力の種類を知る

エキスパートに暴力についての現状を話してもらう

ビデオやポスターなどを活用して暴力の実態を知る

WAGGGS が現在何に取り組んでいるのかを説明

ディスカッションテーマ

「"安全な場所の提供"のために地域、連盟ができること」

「なぜこの取り組みが大事なのか」

ホワイトリボンキャンペーンなどを紹介して男性も一緒に取り組めることも紹介 相談された時の対応ロールプレイ

【感想】

男子や男性に対するアプローチは非常に重要だと思っていましたが、実際の自分たちの活動としてなかなかクローズアップされていなかったので、今回のセミナーでもっと働きかけてよいのだと学びました。

まずは身近な存在のボーイスカウトと協働していきたいと思いました。

5月8日(水)14:00~17:30

セッション/プログラム | ルワンダ連盟ユースセンター訪問

【内容・手法】

セミナー3 日目の午後は、ルワンダ連盟ユースセンター(以下 AGR センター)訪問をしました。ホテルからバスで移動し、町や住宅街を抜けて約 30 分のところにセンターはありました。私たちが到着すると、ルワンダガールガイドの子供たちが 2 列に並び、一人ずつ手をつないでアーチを通り、歌やダンスのパフォーマンスで私たちを歓迎してくれました。地元メディアなども取材に来ていて、夜にはニュース番組で私たちの訪問が報道されました。私たちが訪れるということで、ガイドたちの手作りの民芸品やガールガイドグッズ、民族舞踊の DVD などを売るバザーも催されていました。





AGR センターは男女ともに利用することができ、一般の人たちの利用も可能です。HIV 感染テストを無料で受けることができ、そのためのカウンセリングルームやテストを行うメディカルルームがあります。カウンセラールームにはカウンセラーが常勤しており、身体の悩みから心の悩みなどを聞き、カルテにして情報を保存します。また、最新のパソコンが多数完備された学業支援のためのパソコンルームや、さまざまな事情で社会に出ることのできない少女や女性のための職業訓練とした裁縫室もあります。



また、建設中の大ホール(多目的ホール)はセレモニーや集会に使い、また一般の人には結婚式などを行えるように町の料金よりも安く貸し出したりもする予定です。ルワンダは山や丘が多く、このセンターも丘の上にあるので、ホールからの眺めはとてもきれいでした。





【感想】

AGR センターに訪れ、私たちはとても暖かく歓迎されました。地元のメディアなども取材に来てくださり、積極的に私たちの活動や活動の目的をサポートしている姿勢を見せてくださいました。すべての人が平等に使える AGR センターは、地域の人たちの HIV 感染拡大を抑えたり、学力を高めるのに貢献しています。こういった活動を地域のひとたちの協力のもとに行えるのは、ルワンダでのガールガイドの活動が広く知られて認められているからだと感じました。

5月8日(水)18:00~18:30

セッション/プログラム アクションプランニング

【内容・手法】

AGR センターからホテルに戻るのが遅くなってしまったので、短めのセッションになりました。このセッションでは、それぞれの国の連盟にとって STV キャンペーンがどれだけの優先順位にあるか、どれほど重要視されているか、ということを配られたツールキットを使ってアクションプランのための Step 1 (13 ページ参照) についてのグループワークをしました。

優先順位

- ・ 連盟、もしくは自分にとって、このキャンペーンはどの程度の順位に存在するか
- ・ 自分、もしくは自分のグループにとって暴力を終わらせること、少女の権利に気づく ことはどれほど大事なのか

人

- 誰がアクションプランを企画するのか
- ・ 自分の企画に誰が関わってくるのか
- ・ どうやって対象の年代 (レンジャー、ヤングリーダー世代) をキャンペーンに参加させるのか

時間

・ キャンペーンにかけられる時間

資源

- ・キャンペーンにかけられる金額は?
- ・キャンペーンを実施するにあたってどのようなサービスを利用するのか
- ・ どのような資源が必要で、どのように確保するのか

これらの質問に対し国ごとのグループワーク形式で答えていきました。

夕食後、日本から持参した模造紙に、日本代表の呼びかけで、みんなで手形の花を咲かせるアクティビティをしました。みんなの手の花を咲かせ、願いが一つになることを祈りました。



【感想】

このセッションでは、大きな計画を行うには念入りな調査や話し合い、慎重な決断が必要だということを再確認させられました。対象者や期間、資金など基本的概要だけではなく、細かいポイントをついていき、すべての条件を調整して、クリアしていくのは難しいことですが、やはりそれは計画成功のためには欠かせないことだと感じました。

5月9日(月)6:50~15:00

セッション/プログラム ルキラ地区訪問

【内容・手法】

早朝から出発し、バスで約3時間かけてタンザニアとの国境近くの山岳地帯にあるルキラ地区を訪問しました。この地域はルワンダ連盟ユースセンター(以下 AGR)の活動が入っている地域で、ジェンダーベーストバイオレンス(以下 GBV)、つまり女性だという理由で差別や暴力を受けている被害者の女性がたくさんいます。ここに到着したときも、歌やダンスで歓迎してくださり、ガールガイドだけではなく学校帰りの子供たちや村中の人が広場に集まってきていました。

この訪問には、ルワンダ連盟の会長や警察の役人などの重役の方がたくさん訪れていて、 私たちの活動一つ一つが、やがて大きな成果になるようにとの願いを込めて日本からの お土産である千羽鶴を贈りました。



今回の訪問では、実際に GBV の被害者女性から話を聞きました。19 年前にジェノサイド(一つの人種・民族・国家・宗教などの構成員に対する抹消行為)があった背景から、その話は壮絶なものでした。一人のまだ 10 代の少女はジェノサイド直後に父親から家庭内暴力を受け怪我をし、心を閉ざしてしまいました。ある女性はジェノサイドでの混乱のなかレイプされた経験を話してくれました。いままでのトレーニングや訪問とは違う雰囲気で、話している女性も途中で涙ぐむこともありました。AGR はこういった事情を持つ女性達の心と体のケアをする活動を行い、サポートしています。そしてサポートを受けた女性達はガールガイドになり、今度は支える側になるのだそうです。また、ガールガイドたちが暴力についてのロールプレイをしてくれました。父親が飲酒から家庭内暴力に発展する様子を表した劇でした。こういった活動を学校や集会ですることで、家に帰ってから親に伝えたり、改めて暴力について考える機会になるそうです。このような発表を見せてもらった後、私たちはバスにのりホテルへ戻りました。





【感想】

ルキラ訪問は、私がいままで経験したことのないような機会でした。実際に被害者女性の話を聞いたり、ジェノサイドのときの話を聞いたり、私の生活からはかけ離れたような話ばかりでしたが、ルワンダという国で行ったセミナーだからこそできたことでもありました。ただ少し残念だったのは、せっかくの地域訪問にも関わらず、私たちはテントの下の椅子に座って話を聞くだけで、話が終わるとすぐバスに乗り込まなくてはならず、地域の人たちと触れ合うことができなかったことです。遠方だったので時間も限られていたからでしょうが、もう少し触れ合う時間が欲しかったです。

5月9日(木)16:00~18:00

セッション/プログラム キャンペーンアクションプラン

【内容・手法】

★キャンペーン

まずは web 上で展開されている様々なキャンペーンを見ました。

今の時代、様々な媒体を通し宣伝することができます。私たち日本連盟は日本連盟のホームページから STV バッジを取得することができます。バッジを取得することを通じ、スカウトの親にも私たちの活動の目的、することとしたいことを伝えることも重要です。そして活動の成果を発表する機会を設け、そこに親や友人、パネラーやメディアを呼び、Facebook やブログで情報を拡散すれば、たくさんの人の目に留まるでしょう。

こういった情報拡散は実際にガールスカウトも行っていますが、それだけではインパクトが足りません。なぜ足りないかというと、ありきたりだからです。もっと多くの人に見てもらうには、時代の流れに沿った新しい活動に取り組むべきです。ここで例に挙げられたのが海外ではよく行われているフラッシュモブでした。

http://www.youtube.com/watch?v=GBaHPND2QJg

これは有名なスペインの銀行のフラッシュモブです。

そして、実際に海外のガールスカウトが行ったフラッシュモブの映像は YouTube で見ることができます。

http://www.youtube.com/watch?v=i bZXBJskQI

http://www.voutube.com/watch?v=5klLP SIHEw

こういったアクションは国民性もあると思いますが、参加する人も楽しく、その場に居合わせた人も楽しめる素敵なアクションです。制服をきて行うことで、ガールスカウトだということも分かり、興味を持ってくれる可能性が高まります。このような活動を日本連盟も積極的に取り入れてはどうだろう、と思いました。

★パトロールワーク

パトロールごとにキャンペーンの内容を考えました。ゴール、教育、声に出すこと、アクションを起こすこと、どのくらいの期間、キーメッセージ、デリバリーの要素を必ずいれ、どのようにしてキャンペーンを行うかを話し合いました。

各パトロールのテーマは次の通りでした。

Early Sexualization / Healthy Relations / Sexual Harassment / Sexual Violence / Stop the Violence Against Girls / Dating VD

興味深いものは Early Sexualization(低年齢で性を意識・商品化すること)でした。

この問題は、しばしば欧米で問題視されている現象という認識はありましたが、日本でも「子どもを守る責任」という観点からも私たちが取り組むべきテーマの一つだと思いました。

5月10日(金)9:00~10:45

セッション/プログラム | スキルワークショップ/メディア

【内容・手法】

9 日の午後に行ったセッションに関連し、情報を拡散する手段や媒体について、そして効果的な方法について考えました。まず最初に4~5人が1つのグループとなり、

- 誰に
- ・どうやって (手段)
- 何を
- ・なぜ

を internal (内) と external (外) それぞれ模造紙に書き出し、効果的な方法や手段について話し合いました。

	内	外
誰	・リーダー	・国会、議会
に	・ガールガイド	・NGO 団体
	・スカウトの親	・他団体
	・コミュニティ	(ボーイスカウト、ユニセフ etc)
		・学校
ど	普段のプログラムから	・TV、CM、ラジオ
う	・グッズ作成	• twitter
や		· facebook
つ		• YouTube
て		・ポスター、チラシ
		・ 芸能人による宣伝
		・ ロビー活動
何	GBV の深刻さ	・自分の身を守ること
を	・ガールスカウトの立場	・GBV について
		ガールスカウト活動について
		・法律改正、成立

な・ガールスカウトとしての使命

- 認識を広めるため
- ・被害者を減らすため
- より良い社会のため

など、これらのことが挙げられました。

この次は実際にこれらの内容を伝える1分間のビデオをグループごとに録りました。

1.問題はなにか

ぜ

- 2.解決策の提案
- 3.起こすアクション

宣伝や広告などを作成する際に最も人の心に入り込み、印象に残るのはこれらの3つの 条件を分かりやすく取り入れることだそうです。

これをもとに私たちのグループがつくった CM は、教育をテーマにしたものです。暴力が世界中で起こっている問題だということをまず知らなければならない、という主旨で、グループには偶然にも5つの地域から一人ずついたのでそれぞれの母国語でアクションを起こそう、教育が大事、ということを訴えました。

その次は、最近流行っている twitter の#(ハッシュタグ)を活用して、STV キャンペーンや GBV についての情報を拡散するアクティビティを行いました。140 文字という限られた文字数の中で、どれだけの情報を印象的に伝えられるか、が問題です。世界連盟も Stop The Violence のアカウントを持っていて、そこから情報を流していますが、自分からも発信していくことも必要です。#Takeactions #Stoptheviolence などで#以降のワードを統一し、最後に日本連盟もしくは世界連盟のウェブサイトをリンクで貼り、実際にツイートをしました。



【感想】

このセッションでは、報道の効果的な方法やファクターを学びました。グループワークも楽しく、想像力を使っての作業でした。実際にスカウトのプログラムでも取り入れてみてもいいのではないかと思いました。しかし残念だったのはそれぞれの作品を見ることができなかったことです。参考にしたり改善したりし合えれば良かったのですが残念です。

5月9日(日)9:00~10:45

セッション/プログラム スキルワークショップ/資金調達

【内容・手法】

★パトロールワーク

セッション冒頭パトロールで、『100万ドルの寄付のためのプレゼンテーション』をすることになりました。

20分間という短い時間でドナー(寄付団体)から魅力的と思われる STV キャンペーン をまとめあげなければなりませんでした。

各パトロール2分間のプレゼンテーションの結果、100万ドルを得ることになったのは私たちのパトロールでした!

そのキャンペーン内容は:

テーマを家庭内暴力にしぼり、さらにアルコールによる問題に焦点を絞りました。 キャンペーンテーマは『ミルキーウェイ・デイ』

「ミルキーウェイ・デイ」を設定し、この日はお酒を飲まずにミルクを飲もう!というものです。

啓蒙方法:

メディアを使った広告。

レストランやバーでも賛同してもらえるように働きかける。

学校や地域での活動。

学校での活動は子どもが家で親に対して「今日はミルキーの日だよ」と言ってくれる。また、その子が成長してアルコールに依存しない環境も期待。

勝因は以下の3つのポイント

- 覚えやすい
- ・ ターゲットが現実的(地域から始めて国全体に浸透させることは可能であること)
- ・非常に大きな問題であるが、問題の的を絞っている

他のパトロールのプレゼンは"どんなことをするか"の具体的な説明が多く、私たちのようなキャッチフレーズはありませんでした。短時間で耳に残るフレーズが浮かんだことはラッキーでした。

また、決定前のドナーからの質疑には、数量的なこと(そのキャンペーンでどれほどの 人が影響受けるか、その暴力の犠牲者の数など)や資金の使い道 などがありました。

実際のプレゼンを思うと、特に数量的なことは事前の調査も必要であり、きちんとした 予算案を含めてそのキャンペーンがしっかり考えられたものであるかの判断基準にもな るので大切だと思いました。

★寄付する側の心情

選考を終えて、寄付する側の心情を学びました。

- ・ドナーは世の中を変えたいと思っている。
- クリエイティブで発明的なアイデアをいつも探している

ドナーの目的と合致するように、プロジェクトごとにドナーを選ぶことも考慮する。 世の中には個人も含めて寄付団体はたくさんあるので(寄付団体の一覧もいただきました)インターネット上をよく探したりすること。

★寄付(助成金)申請のためのコンセプトノートの作成

数ページのプロジェクト概要がわかる資料=コンセプトノート

大量の資料は作成する私たちやそれを見るドナーの両方の時間の無駄につながる。

第1段階の選考 → コンセプトノート

第2段階の選考 → プロジェクトと予算の詳細が記された企画書を提示

★コンセプトノートとプロジェクト企画書の違いを理解する

コンセプトノートに必要な事項

- ・事業主(私たち)のプロフィール
- ・プロジェクトを一文で説明(どれくらいの人に影響を与えられるかも含む) 例 ミルキーウェイキャンペーンは、国民の約70%が直面しているといわれる アルコールによる家庭内暴力の問題の解決を訴えます。
- 対象とする人々は誰か

大事なことは、

短いコンセプトノートでも「変化(得られる結果)」が読み取れること。

★ドナーとの関係

重要なことは、たえず寄付者や寄付団体との関係を維持していくこと。 1つのプロジェクトで寄付を得られなくても、いつか得られる時もある。

★基本的な準備や注意事項

- ・すべての必要な書類を取り寄せる
- ・注意深く書類を読む
- どのように申請するかを必ず確認
- ・締め切りは守る
- ・寄付団体の調査(どんなことに寄付しているかの傾向を知る)
- ・個人も含めて寄付団体に関するアンテナをはっておく
- ・他の団体が似たようなプロジェクトでどんな(どこから)寄付を受けているかもチェックしてみる

【感想】

個人の寄付という欧米の寄付文化を前提としたセッションだったので、そのまま日本での展開に置き換えるのは難しいかもしれません。

しかし、ドナーとよい関係を築くことや、ドナーの興味や望む結果を提供できるという アピール次第で Win-Win の結果を得られるということ。自信を持って寄付(助成金)申 請に臨みたいと思いました。

5月9日(月)11:15~13:00

セッション/プログラム スキルワークショップ/ロビー活動

【内容・手法】

このセッションでは、効果的なロビー活動や印象の与え方について学びました。活動を 進めるには資金が必要です。そのためには、企業や団体、政治家や芸能人など、様々な 相手に協力を要請する必要があります。

★ゲーム

最初に、参加者にランダムに小さいボールが配られます。たくさん持ってる人、1つだけ持ってる人、持ってない人と様々です。そして、ボールがない人やもっと欲しい人は、ボールを持っている人の所に交渉しにいきます。条件は、口頭で説得させることです。私はボールを持っていなかったので、たくさん持っていたカナダから来たメンバーに交渉しにいきました。ボールを欲しい、というだけでは説得できません。なぜ欲しいのか、その代償に何ができるのか、などを話し、ボールをもらいました。

ロビー活動をする上で最も必要なことは問題、解決策、目標を明確にして提示することです。提示することで相手は、協力できること、できないこと、などを考察できます。

相手にイエスと言わせる為には、情報、策、結果などを自らが深く理解し、説明できなければならないということを学びました。

★世間からどのように見られているか

私たちガールスカウト・ガイドが、世間からどのように見られているか、何に特化しているかを客観的に分析してみました。世間からすれば、ガールスカウトと聞くと、クッキーを売ったりバザーをしたり、キャンプをしたり、などと楽しいことばかりしているようなイメージがあります。

★私たちはエキスパート

そこで、どうしたら私たちはエキスパートとして見てもらえるかを考えました。私たちが今回のようなSTVキャンペーンに取り組んでいることや、海外派遣をしていることを知っている人は多くありません。世間の見方や意識を変えるには、ガールスカウト活動を広げて改革すること(ミッション、ビジョンの拡大)が重要になってきます。

そして政府機関との繋がり、奉仕活動を推して広報することで、意識も変わってくるでしょう。ガールスカウトの代表として企業や団体に出向いてロビー活動を行う為には、自分たちの使命だけではなく、印象や存在価値を再確認する必要があるということを学びました。

【感想】

このセッションを受けるまで、ロビー活動に対しては、難しくて固いイメージを持っていましたがそれは私たち日本人が、自分たちの団体や活動を売り込むことや、条件を提示して納得させることなど、苦手とする分野だったからだと感じました。こういった口だけを使って相手に取り込む活動の練習は日常的にも使えることなので、ぜひスカウトたちにもピアエデュケートしていきたいと思いました。

5月10日(月)14:30~18:00

セッション/プログラム | アクションプランニング・プレゼンテーション

【内容・手法】

まず 14:30~16:00 までは、国ごとに集まり、帰国してから行う企画についてプランニングしました。わたしたちは、まず日々の集会から全国のスカウトにデート DV について知ってもらうために、リーダー育成、研修をしたいと考えました。リーダー、ヤングリーダーを対象としたデート DV 講習会の開催、E-learning システムの普及を第一歩とし、そこから様々なプロジェクトを展開していきます。いままでにない新しい活動として、スカウトのみなさんに取り組んでもらった STV の活動を発表する大きな場を提供することや、常に STV キャンペーン、安全な場所としてガールスカウトがあることを身近に

感じられるようなグッズの作成、意見交換を目的としたパジャマパーティーやなどを考えました。また、スカウト内だけでの活動にとどまらず、デート DV 撲滅を啓発するショートビデオの一般公募や、SNS を通じての情報拡散などを企画しました。

そして、16:30 からはそれぞれの企画の発表です。キャンプだったりパーティだったり、フラッシュモブだったり、海外ならではのアイデアを聞き、とても参考になりました。

【感想】

限られた時間で発表したので進むスピードも早く、気になった部分しか記録できなかったのが残念でした。しかし、日本とはまた違った感覚でプロジェクトを実施しようとしている姿勢やアイデアは、とてもユニークでおもしろいものでした。私たちも、もっと新しいことに挑戦していきたいと思いました。

5月10日(月)20:00~21:30

セッション/プログラム クロージングセレモニー

【内容・手法】

プレゼンに時間がかかり夕食が遅れたため、時間が押していたのでクロージングセレモニーは時間も限られていて慌ただしかったのですが、ルワンダ連盟会長に日本連盟からの記念盾と、千羽鶴を贈り、写真を撮りました。

また、それぞれの参加者にこのセミナーに参加したことを証明する表彰状が渡されました。その後は大きな布に一言ずつ寄せ書きをしました。そのあとは自由時間で、夜遅くまでダンスパーティーをしました。











【感想】

開会式とは違って堅苦しくなく、もっとカジュアルな雰囲気での閉会式だったので、写真撮影や食事を楽しんだり、音楽をかけてみんなでわいわいしながら話したりしたので、とても楽しかったです。楽しいことはどこの国に行っても、人々をひとつにするということを実感しました。

5月11日(月)8:30~11:00

セッション/プログラム | ジェノサイド記念館・Isange One Stop Center 訪問

【内容・手法】

最終日は朝からジェノサイド記念館と、パネルディスカッションでも話されたワンストップセンターに訪れました。館内に入る前に、記念碑に参加者から一本ずつと団体から大きな花束を供え、祈りを捧げました。花束には、We will never forget you(私たちは忘れない)と書かれたリボンが飾られていました。



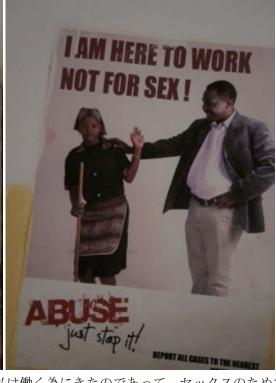


ジェノサイド記念館内は撮影禁止だったのですが、始まりから終わりまでの過程や背景や当時の様子を英語とフランス語で一部始終説明してあるパネルを順番に読み歩いていく構造でした。その道中にはジェノサイドで亡くなった人々の顔写真や衣服、骨や遺品が飾られていました。ルワンダ連盟から参加したガイドの中には、大虐殺で家族や友人を実際に亡くしたガイドもいたため、当時のことを思い出して泣いてしまったり、先に進めなくなってしまうガイドもいました。二階は主に子供達一人一人の大きなパネルがあり、そのパネルには、名前、年齢、性別、特徴、好きなことや癖などが書かれており、どのようにしてジェノサイドの時に殺されたか、などの詳細が書かれていました。

子供達の笑顔の写真からは想像できない残酷な死に方を考えると、思わず涙がでてしま う参加者が多かった様子でした。

その次は Isange One Stop center にいきました。Isange(イサンジ)とは、ルワンダ語で「温かく迎える」という意味です。家庭内暴力と GBV を受けている人々のために、無料のサービスを提供しています。また、無料の電話相談ホットライン、さらなる暴力からの保護、犯罪の調査、医療ケア、心理社会的なケアを提供する他、裁判で必要となる様々な証拠の収集も支援しています。2009 年 7 月、イサンジ・ワンストップ・センターは、ユニセフと国連女性開発基金(UNIFEM)、国連人口基金(UNFPA)、その他のパートナー団体の支援を受けて設立されました。警察の管理の下、24 時間サービスを受けられることができます。無料の相談ホットライン、犯罪調査、傷の治療やメンタルカウンセリング、子供の手当や裁判手続きの手伝いなどすべてをここで補うことができます。館内のいたる所に GBV や家庭内暴力撲滅を啓発するポスターが貼られていました。





(もしこれが自分の娘や家族だったら?) (私は働く為にきたのであって、セックスのためではない。)



ここは受付です。何が原因で来たのか、このあとどうするか、などを相談します。ちょうど誰かが訪問していたため、相談室の扉とカーテンは閉められていました。



ここは子供の患者の為の部屋です。連れられてくる子供の患者は、心を閉ざしてしまって何も話せない状態の子供が多いらしく、まずはリラックスさせることが必要ということで、部屋にはアニメのシールが貼られていたり、ままごとセットやぬいぐるみが置いてありました。



センターはとても綺麗で広く、眺めもとても良い所でした。



ここは研究室です。最先端の機械が置いてあり、HIV などの検査や病気の研究など様々な医療研究を行っているそうです。

【感想】

ジェノサイド記念館を訪れて感じたことはシンプルに、争いは良くない、ということの みでした。ルワンダに来てから、想像していたよりも平和的な国で、ジェノサイドにつ いては町で見かける看板ぐらいのもので、あまり実感がありませんでした。しかし、記 念館で泣き出すガイドや、子供達の生前の笑顔の写真、遺留品などを見ると、人間が同 じ人間を殺すなど、許されてはならないと感じました。

ワンストップセンターでは、たくさんの患者が診察を待っていました。壁に貼られているたくさんのポスターを見て、ルワンダでの家庭内暴力や GBV の深刻さに気づきました。国や機関が協力して、すべての被害者に平等に治療を提供する方針は、暴力を断ち切る、もしくは被害者を減らす大きな第一歩です。ルワンダにおける国と組織、病院や警察との連携はすばらしいと感じました。

【参加者感想】

大阪府55団 宮次 励來

今回のセミナーを通して、私たちにはまだまだ課題が残っていると実感しました。STVキャンペーンが取り組むデート DV は日本でも広くは知られておらず、知ってもらうことから始めなければなりません。 1 週間で学んだことは、簡単なことから複雑で難しいことまで様々ですが、わたしたちが行うことについて、もっと計画的かつ慎重に、そして迅速に進めるためには、すべての要素を取り入れる必要があります。日本中の少女と女性にデート DV の知識、深刻さをひろめ、廃絶することを目標に Know! No! Dating Violence というキャンペーンを STV 委員会の協力のもと進めていきます。

また、期間中は慣れない食事や水滴のようなシャワーに戸惑うこともありましたが、そのおかげで自分たちがどれだけ便利な生活をしていて、それを当たり前だと思っているかにも気付きました。地域訪問や連盟訪問では、小さな子供達に触れ合う機会がありました。日本でもなかなかブラウニー以下の子供達と触れ合う機会はないのですが、ルワンダの子供たちは決して裕福とは言えない生活をしている様子でした。しかし、破れたぶかぶかの服を着てぼろぼろのサンダルをはいていても、とてもかわいい笑顔で写真を撮ってくれたり、楽しそうに家事を手伝ったりしていたのが印象的でした。ワンストップセンターでは、診察に訪れていた少女に出会いました。私は英語しか喋れないないし、相手には伝わりません。しかし、話しかけると笑顔で手を握ってくれたことがいまでも忘れられません。子供達が被害を受けないように、そして今いる被害者が暴力から解放されるように、これからの活動にも尽力していきたいと思うキャンペーンでした。

奈良県第30団 下良 真季

私の参加目的の一つは「アドボカシー」でした。この言葉をガールスカウト活動で聞くようになりずいぶん経ちますが、実際の運用において自分の中で消化できていませんでしたが、丁寧な説明や活用方法を考えるセッションなどを通してよく理解できました。

様々なセッションの中でも「少女と若い女性を守る責任」は、ある意味で衝撃でした。 パキスタンのリーダーも言及していましたが社会に働きかける活動が命に関わることにな る場合があります。またここでの責任は"安全に気をつけて活動する"というレベルから さらに広範囲の責任です。使命として言葉にすると今までカバーできていなかった部分が 見えてくるように思いました。どんなことがあっても少女/若い女性を守るための心構え ができているか?自問しました。

セミナーにはアフリカ地域からの参加国が半数近くでしたが、現在も紛争を抱えている 国々からも来ていることに驚きました。帰国後も紛争地のニュースを見ると心配になりま す。彼女たちは自国の現状を思いながら非常に真剣にセミナーに取り組んでいました。ま た「ルワンダがうらやましい」という声も彼女たちから聞きました。約20年前のジェノサ イド(大虐殺)からの復興策の成功が治安の安定そして国連などの国際支援の進出に大き く貢献しているからです。ルワンダ連盟は大惨劇の直後から少女と女性の支援に立ち上がり、現在では政府や国連との関係を深め地域社会になくてはならない存在になっています。また、私は今回のセミナーを通して「紛争(戦争)=レイプ」ということを初めて認識しました。ジェノサイドについても、男性の犠牲者が多いと思っていましたが、民族の血を抹殺するという意味で「産む性」である女性がターゲットになっていたことも初めて知りました。

『少女がつくる暴力のない世界』 — これが実現された向こう側にはすべての紛争・戦争もなくなっている世界であってほしいと思います。